

別記様式第1号一別紙1

補助事業計画書  
(みやぎの食復興支援事業・企業連携支援事業)

平成29年4月21日

## 1 申請者概要

申請者名称 食産業振興株式会社			
代表者氏名 代表取締役 泉 花子		担当者氏名 若林 三郎 (所属部署名) 営業	
所在地 〒980-8570 仙台市若林区本町〇丁目△番×号 TEL: 022-211-2963 FAX: 022-211-2819			
ホームページアドレス	<a href="http://www.pref.miyagi.jp/">http://www.pref.miyagi.jp/</a>	E-mail	s-business@pref.miyagi.lg.jp
設立年月日 昭和31年4月1日	資本金 1,500 (千円)	従業員数 常時: 100人 臨時: 50人	
みなし大企業	<input type="checkbox"/> 該当する <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		
主な事業の概要 レトルト食品製造業 主な商品: トマトカレー・牛タンカレー・ふかひれスープ 等 弊社は創業以来、カレーを中心としたレトルト商品の製造販売を行っており、レトルト商品の製造技術のノウハウについて蓄積がある。震災以降、宮城県産食材を活用した商品開発の取組みを開始しており、これまでに△△町産トマトを使用した「まるごとみやぎ! 完熟トマトカレー」を販売し好評を得ている。			

## 2 事業テーマ

まるごとみやぎ! 〇〇マグロと△△産トマトを使用したレトルトカレーの商品づくりと  
販路拡大

## 3 事業の内容

## (1) 商品づくり

〇〇で水揚げされるマグロは〇〇漁港の復旧に伴い今年の水揚げが本格化する。本事業では、既存商品である完熟トマトカレーに宮城の水産業復興を象徴する〇〇のマグロをコラボレートしたレトルト商品を開発する。併せて購買層を意識したパッケージデザインも開発する。日本人が好み栄養価が高く体によいマグロを活かした商品開発を行うことで、新たな市場を開拓し、食材王国みやぎの一助となる商品を提供していきたい。

カレーは子供から大人まで人気があり、全国各地でご当地カレーが販売されている。当社でも牛タンカレーなど仙台・宮城にゆかりのある食材を活用したカレーを販売しているが、海産物を使用したものは初めての試みとなる。原料のマグロは当社で使用実績があるふかひれを取り扱う加工業者より調達する予定である。

## (2) マーケティング活動

市場調査を専門とする(株)〇〇研究所に依頼し、首都圏でのモニター会(グループインタビュー・アンケート等)を活用して風味や量・パッケージデザイン等の調査を行う。調査により改良を加えた商品のテストマーケティングを東京・宮城で実施する。従来の量販品より少し高級なものを求める購買層をターゲットとし、贈答用ではなく自家用商品として位置づけたい。

## (3) 販路開拓活動

新商品を展示会等で紹介し、高級志向で差別化商品を取り扱う新たな販路を開拓する。ぶつ切りにした大きなマグロの食感を消費者に理解してもらうため、店頭試食や販促物配布により販売拡大を図る。また、ネットショップを活用し、個人向けの販売を拡充する。

## (4) 人材育成活動

社員の商品開発力を向上させるため、外部専門家による定期的な社内研修会を実施する。社内研修会は自社では初めての試みとして外部コンサルタントに委託し実施する。

## 4 経費の内容

(単位：円)

補助対象事業	事業費	補助金申請額	自己負担額
商品づくり	1,200,000		
マーケティング活動	800,000		
販路開拓活動	800,000		
人材育成活動	300,000		
合計	3,100,000	1,200,000	1,900,000 (借入金〇〇銀行)

## 5 事業のスケジュール 別紙3のとおり

## 6 事業の必要性及び効果

東日本大震災により自社工場が被災し、製造ラインの復旧が完了した平成23年9月まで製造を全面的に休止せざるを得ない状況であった。その間〇〇県××町に委託加工を依頼し事業を継続したが、従来の販売先が他産地商品への取り扱いに変更したため、販路を失ってしまった。震災以降、トマトカレーの販売により徐々に販路を取り戻しているが、震災前の販売水準には至っていない。本事業を行うことで、付加価値をつけた差別化商品を開発し、新規の販売先を確保することが可能となる。また、販路の回復により当社従業員の雇用維持や、県内の農水産物の振興を図ることができる。

さらに今年度は当社の新たな試みとして、今年度は定期的な社内研修を実施し、社員の商品開発能力の向上を図り長期的な視点での人材育成を行う。

## 7 直近3年間の決算状況（直近から順に記入）

（単位：千円）

	売上高	営業利益	当期利益
27年6月期 (第57期)	15,000	3,000	△3,000
26年6月期 (第56期)	10,000	100	△5,000
25年6月期 (第55期)	10,000	△5,000	△10,000

## 8 連携者の概要（※企業連携支援事業のみ記載すること）

設立年月日 年 月 日	資本金 (千円)	従業員数 常時： 人 臨時： 人
みなし大企業	<input type="checkbox"/> 該当する	<input type="checkbox"/> 該当しない
主な事業の概要		

## 事業費積算明細書

事業者名：食産業振興株式会社

(単位：円)

補助対象事業	経費項目	事業費	積算明細	
			内容	事業費内訳
商品づくり	研究開発費	1,180,000	原材料費 (マグロ@○円△kg)	600,000
			外注費 (マグロ加工)	30,000
			包装デザイン開発費	150,000
			検査・分析費 (製品検査等) (@○円×△検体)	400,000
	庁費	20,000	消耗品費	20,000
	小計	1,200,000		
マーケティング活動	謝金	200,000	外部専門家謝金 (市場調査) (○円×△人×□回)	200,000
	旅費	50,000	市場調査交通費 (××⇄仙台 ○名×△回)	20,000
			市場調査宿泊費 (@○円×△泊×□回)	30,000
	調査研究費	530,000	マーケティング委託費	530,000
	庁費	20,000	消耗品費	20,000
	小計	800,000		
販路開拓活動	旅費	300,000	PR活動・展示会 交通費 (××⇄仙台 ○名×△回)	250,000
			宿泊費 (@○円×△泊×□回)	50,000
	庁費	500,000	出展小間料 (東京□□展示会)	100,000
			パンフレット印刷費 (1,000部)	350,000
			運搬費 (延べ△回)	20,000

			備品レンタル使用料	30,000
	小 計	800,000		
人材育成活動	研修費	300,000	コンサルティング 委託費	300,000
	小 計	300,000		
	合 計	3,100,000		

事業スケジュール

事業者名：食産業振興株式会社

	事業内容	備考
4月		
5月		
6月	・市場調査	
7月	・新商品の開発にむけて試作品づくり	
8月	・新商品の開発にむけて試作品づくり	
9月	・人材育成に係るコンサルタントと委託契約	
10月	・パッケージ開発	
11月	・試作品によるサンプル調査	
12月	・試作品の改良 ・PR活動 ・テストマーケティング	
1月	・試作品の改良 ・PR活動 ・テストマーケティング	
2月	・試作品の改良 ・展示会参加	
3月	・展示会参加	

商 品 販 売 計 画

事業者名：食産業振興株式会社

(単位：千円)

商 品 名		現 状 ( 29年 6月 ~30年 5月)	1 年 目 ( 30年 6月 ~31年 5月)	2 年 目 ( 31年 6月 ~32年 5月)	3 年 目 ( 32年 6月 ~33年 5月)
1	まるごとみやぎ！ぶ つ切りマグロとトマ トの贅沢カレー（レ トルト商品） △△円（○○g）		2,800	5,600	14,000
2					
3					
4					
5					
合 計			2,800	5,600	14,000